

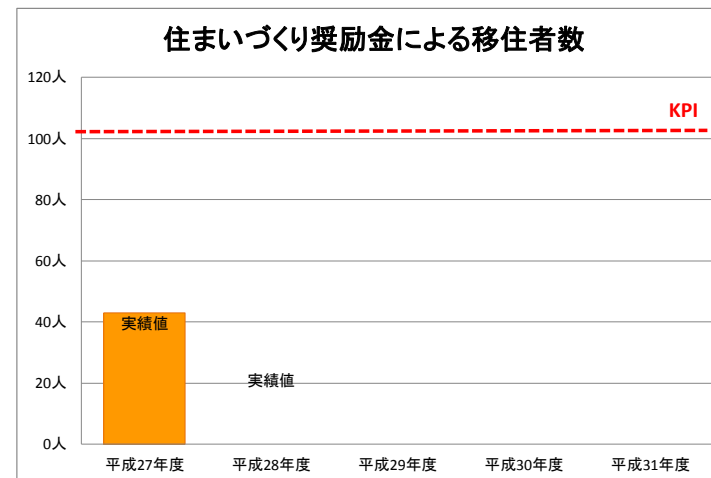
1 総合戦略効果検証シート					
4-1-1		① 住宅取得支援制度の拡充			
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度
地域整備課		住まいづくり奨励金による移住者数	100人(累計)	20人(累計)	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	25人	40人	40人		
実績値	43人	49人(累計92人)			
年度目標に対する達成率	172.0%	122.5%			
基準値に対する増減率					
評価	◎	◎			
取組内容 PLAN	①住まいづくり奨励金の受付交付事業の実施 ②若者による住宅購入への助成の実施				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...) DO	①HP等でPRの強化を図った。 ②住宅メーカーや不動産業者等にリーフレットを配布し、制度の周知を図った。 ③三世帯同居のための改修助成を拡充した。				
分析 Check	三世帯同居のための改修助成を拡充することにより、引き続き三世帯同居を継続する世帯が増え、子育てしやすい環境整備が図られた。				
対応方向 Action	今後も三世帯同居や近居に重点をおいた補助制度を継続する。				

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 ①目標値を上回っており、今後もニーズを踏まえて対応していく必要がある。
	平成28年度 ①三世帯同居に対する助成を手厚くし、子育て環境の充実を図るとい方向性は良いのではないかと。
H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

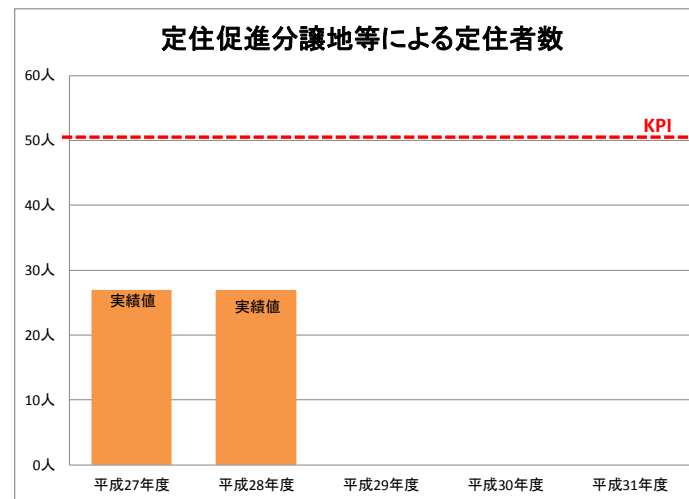
2		総合戦略効果検証シート			
4-1-1	③	若者の移住・定住の促進を図る宅地供給の推進			
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度	
地域整備課	定住促進分譲地等による定住者数	50人(累計)		14人(累計)	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	20人	3人	新整備調査・計画		
実績値	27人	0人 (モデルハウス 以外は入居済)			
年度目標に対する達成率	135.0%	—			
基準値に対する増減率					
評価	◎	△			
取組内容 PLAN	<p>駅東分譲地10区画（第1次分）は、モデルハウスを除いて9世帯27人が入居済み。平成28年度の方譲地の候補調査の結果から、平成29年度に駅東分譲地5区画（第2次分）を整備、販売する予定。同時に邑知の郷公園での分譲地整備の調査、設計を行う計画を策定。</p>				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	<p>駅東分譲地10区画（第1次分）は、平成27年度に完売。平成28年度は新たな造成地候補地の調査を行った。</p>				
DO					
分析 Check	<p>優良な宅地を提供することで既存の街並みとの連結や、民間による開発の誘発につながっていくような分譲地を整備することで、若者の定住を促進できると考える。</p>				
対応方向	<p>優良な分譲地をどう整備していくのか、予算等を精査し決定していく。</p>				
Action					

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



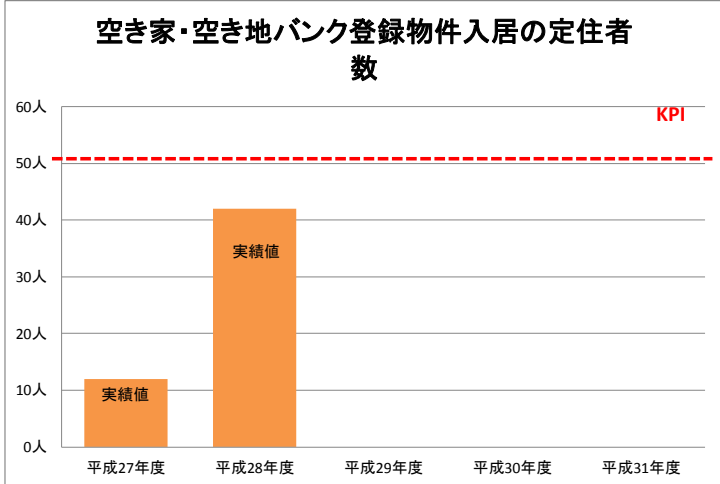
有識者会議による検証評価

意見	<p>平成27年度</p> <p>①定住促進住宅が完売したことが評価できる。定住促進に効果があると思われる。 ②行政ができる範囲は限られていると思う。不動産業者とどこまで協力できるか。 ③若者向け住宅戸数の増加を望む。 ④複数の施策が混在しすぎており、少しまとめた方がよい。</p>
	<p>①若者が移住してくることは大切。その受け入れ体制を整えることが大切。 ②駅前から離れた場所の方譲だが、市街から離れる分、値段が安くするなど、何かメリットがあってもよいのではないか。 ③10区画の方譲地に対して、H27年度の目標値の20人は少なくないか。</p>
H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

3 総合戦略効果検証シート					
4-1-2		① 空き家・空き地の活用促進			
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度
がんばる羽咋創生推進室		空き家・空き地バンク登録物件入居の定住者数		50人(累計)	11人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	15人	15人	20人		
実績値	12人	30人(累計42人)			
年度目標に対する達成率	80.0%	200.0%			
基準値に対する増減率	9.1%	172.7%			
評価	△	◎			
取組内容 PLAN	①「羽咋市空き家情報バンク」登録の推進 ②「羽咋市空き家情報バンク」データベースの作成				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を・・・) DO	① 羽咋市空き家情報バンクの運用(登録・削除) ② 希望者に対し、登録物件の内見案内 ③ 市内町会に対し、空き家情報バンクへの登録啓発チラシを回覧 ④ 石川県運用の空き家情報にも登録物件を掲載 ④ 移住専門誌に登録物件を掲載				
分析	問い合わせ件数は増えているが、物件の状態として即入居可の物件が少なく補修が必要な物件がほとんどである。 また、移住希望者は賃貸を希望するケースが多いが、所有者は売却希望が多く、移住希望者と所有者でのニーズに差異がある。				
Check	「仏壇が残っている」「家財が残っている」等の理由により、今後の利用の予定がなくても登録をしづるケースが多い。				
対応方向	登録件数を増やすために、今後も継続して空き家の有効活用についての啓発を行っていく。 空き家バンク登録の際、空き家リフォーム助成金等の紹介を行い、なるべく状態の良い物件を登録できるよう所有者に促す必要がある。 賃貸での登録を増加させるため、所有者に移住希望者のニーズを伝え、賃貸での登録についても同様に促す。				
Action	空き家情報バンクHPの改修を行い、移住希望者にとってわかりやすい情報を掲載する。 リフォーム助成の対象範囲を増やし、仏壇の撤去や家財の処分等にも助成を行う。				

評価項目	
◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目	
◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度	①空き家バンク制度への登録が促進されるよう、さらにPRが必要である。 ②不動産業者との連携が必要である。
		①移住希望者と所有者でのニーズに差異があるとのことだが、先の「若者の移住・定住の推進を図る宅地供給の推進」と合わせて考えてはどうか。 ②空き地の活用促進については書かれていないが。 ③借りたい人へのPRはあるが、大家さんへのPRが足りないのでは。 ④民泊についてはどう考えるか。道の駅も出来て、羽咋に滞在してもらうためには、民泊があれば、羽咋の町中に入ってきてくれるのではないかと。
H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展	
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展	

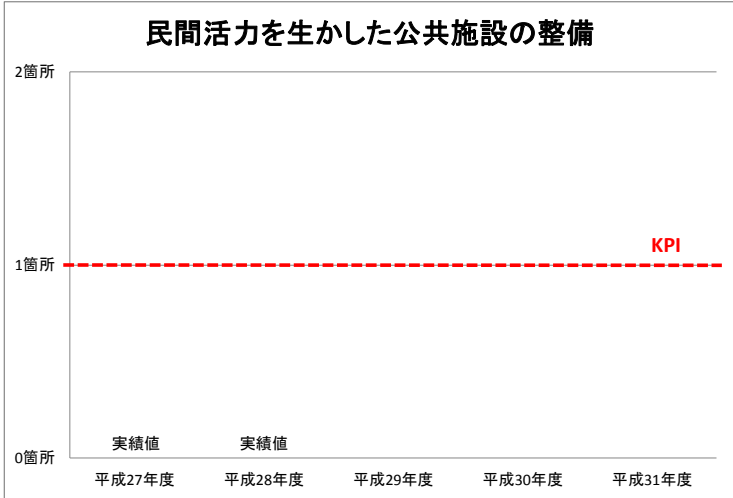
4		総合戦略効果検証シート			
4-2-1	①	公共施設等の総合的な管理運用、再編の推進			
担当課		重要業績評価指標（KPI） ※2019（H31）年度目標値		基準値 ※2014（H26）年度	
総務課		民間活力を生かした公共施設の整備	1箇所	0箇所	
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 平成31年度
目標値				0箇所	
実績値		0箇所	0箇所		
年度目標に対する達成率		—	—		
基準値に対する増減率		—	—		
評価		○	○		
取組内容 PLAN	羽咋市における公共施設等の最適な配置を実現するため策定した「公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設等の個別管理計画を策定し、維持管理費の抑制に努める。				
実績（具体的例：いつ、誰が、どこで、何を・・・） DO	固定資産台帳を基に公共施設等の現状を把握した施設ごとのカルテを活用し、各施設の個別計画を作成。				
分析 Check	各公共施設についての情報を把握し、老朽度や利用度を踏まえ、羽咋市の人口推移と照らし合わせて、必要な公共施設の施設量の分析を行い必要となる予防保全対策を計画する。				
対応方向 Action	公共施設等の中長期的な維持管理費用を算定し、今後の公共施設の在り方を検討し更新・廃止・管理への方向性を検討する。				

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



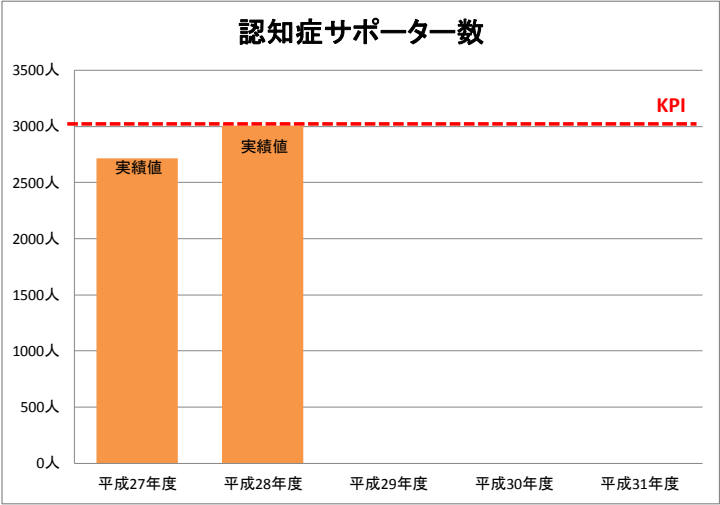
有識者会議による検証評価

意見	平成27年度（KPI：公共施設等総合管理計画の策定H28 ①人口推移との照し合わせが必要。 ②中長期的な公共施設のあり方検討は必要。
	平成28年度 特になし
H27 総合評価	○ 取組内容の継続
H28 総合評価	○ 取組内容の継続

5 総合戦略効果検証シート					
4-3-2		② 認知症施策の充実			
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度
地域包括ケア推進室		認知症サポーター数		3,000 人	2,401 人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	2,420 人	2,520 人	3,300 人		
実績値	2,717 人	3,009 人			
年度目標に対する達成率	112.3%	119.4%			
基準値に対する増減率	13.2%	25.3%			
評価	◎	◎			
取組内容 PLAN	認知症になっても、住み慣れた地域で、尊厳を保って暮らし続けることができるよう、市民が認知症に対する正しい知識や接し方を理解・習得する、認知症サポーター養成講座及び、サポーターのフォロー研修を実施。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	①認知症キャラバン・メイトの協力を得て、地域で認知症サポーター養成講座を9回実施。中学生の福祉教育と連動した養成講座を開催。 【受講団体】 羽咋中学校2年生1クラス・郵便局・JA・町会・地域サロンなど ②認知症サポーターを対象としたステップアップ講座を9月、3月の2回開催。				
分析 Check	中学生を対象とした養成講座により、高齢者に対する理解を深めるきっかけになった。町単位で養成講座では、幅広い年齢層が受講し、その後、町内で一人歩きの事案が生じた際に、身近な協力者が増えたことにより早期発見につながったケースがあった。地域によって関心の差があり、周知を継続する必要がある。認知症サポーターの地域における実践活動までには至っておらず、実践的な活動につなげるシステム作りの検討が必要である。				
対応方向 Action	①引き続き養成講座について、地域に周知するとともに、町単位や児童対象の講座実施を関係機関に働きかけていく。 ②認知症サポーターのステップアップ講座を継続して開催し、地域で活躍できる体制作りを進める。 ③一人歩き対応訓練など、認知症の方への接し方の理解を深める機会を設ける。				

評価項目	
◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目	
◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 ①高齢者の増加に伴い、認知症の人も増えていくことが予測されている。サポーターが実際の活動ができるような実践的な講座を推進していくように。
	平成28年度 ①認知症サポーター養成講座を1回受講しただけでは足りないと思うので、フォロー研修は大切だと思う。フォロー研修をもっと増やしていく方向で進めてほしい。
	H27 総合評価 ◎ 取組内容の深化・発展
	H28 総合評価 ◎ 取組内容の深化・発展

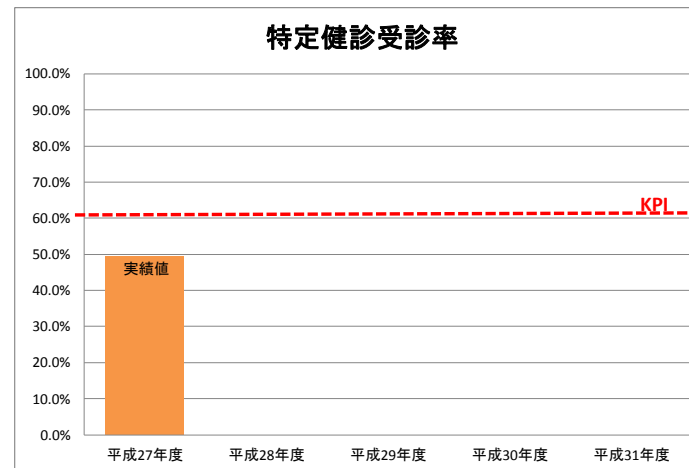
6		総合戦略効果検証シート		
4-3-3	①	生活習慣病の予防		
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度
健康福祉課		特定健診受診率	60%	46.5%
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値		46.6%	47.6%	
実績値		49.3%	未確定	
年度目標に対する達成率		105.8%	—	
基準値に対する増減率		6.0%	—	
評価		◎	◎	
取組内容 PLAN	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診及び特定保健指導により、市民の生活習慣の改善を図る。 ・健康づくり推進員や食生活改善推進員などのヘルスポランテアとの連携・協力による地域の健康づくりを支援する。 			
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	<p>①特定健診の実施 集団健診 地区公民館 10回、羽咋すこやかセンター 9回 計19回実施した。 個別健診 市内協力医療機関 11か所 6/1～8/31の期間で実施した。</p> <p>②未受診者健診の実施 集団健診 羽咋すこやかセンターにて、10/22、10/23の2回実施した。 個別健診 市内協力医療機関 10か所 10/1～11/30の期間で実施した。</p> <p>③未受診者勧奨及び健診結果情報提供の実施 健康づくり推進員の家庭訪問による健診未受診者の状況把握及び受診勧奨を実施した。 7月と10月初旬に電話による未受診者への受診勧奨を実施した。 医療機関で管理中の方や職場で健診を受けている方への検査結果の提供を依頼。</p>			
DO				
分析	健診の受診者数は平成26年度から大きな変動はなく、2,200～2,300人で推移し安定している。			
Check	医療機関で管理中の方や職場で健診を受けている方は、市の健診を受診する必要はないが、その結果を市に提供していただくことで、受診したとみなすことができる。その人数によって受診率が変動しているため、今後は正確な受診率を把握するため、情報提供していただく人を増やしていく対策が必要である。			
対応方向 Action	今後も継続して健診及び未受診者健診の実施、未受診者への受診勧奨を実施する。健診結果の情報提供を広報やホームページ、各地区での健康教育の機会等に周知する。協力医療機関において、医師から受診勧奨や検査結果の情報提供を呼び掛けていただくよう依頼する。			

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 受診率の向上は大切。結構、定着してきた。これからも続いてほしい。
	平成28年度 ①電話催告は効果が出ていると思う。 ②健康づくり推進員の人数をもっと増やすべきだと思う。
H27 総合評価	○ 取組内容の継続
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

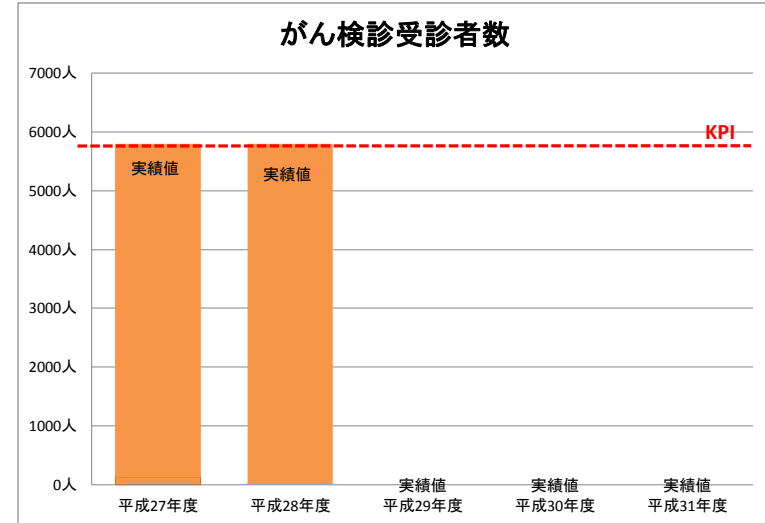
7		総合戦略効果検証シート			
4-3-3		②		がんの早期発見と予防対策の推進	
担当課		重要業績評価指標（KPI） ※2019（H31）年度目標値		基準値 ※2014（H26）年度	
健康福祉課		がん検診受診者数		5,800 人	5,328 人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	5,330 人	5,330 人			
実績値	5,676 人	5,783 人			
年度目標に対する達成率	106.5%	108.5%			
基準値に対する増減率	6.5%	8.5%			
評価	◎	◎			
取組内容	女性がん検診等を含めたがん検診の普及				
PLAN					
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	①40～74歳の全市民にがん検診等受診券を配付し個別の受診勧奨を実施。 ②がん検診の実施。 集団検診 胃がん検診 19回、大腸がん検診 23回、子宮がん・乳がん検診 16回、 個別検診 肺がん・結核検診、節目年齢検診 21回 市内協力医療機関 13か所 6/1～8/31の期間で実施。 大腸がん、子宮がん、乳がん検診は12/28まで実施。				
分析	がん検診等受診券の内容を見直し、検診を受診するために必要な最低限の情報を全て掲載することが、受診行動に結びつき、受診者数が増加した。 また、マスメディアでがんに関心した芸能人の話題が多くとりあげられたことで、がん検診の大切さが周知されたことも、受診者数が増えた要因と思われる。				
Check					
対応方向	受診率を伸ばすためには、個別の受診勧奨及び再勧奨（コール・リコール）が有効な方法であると実証されているため、特定健診の未受診者勧奨に合わせて、がん検診についても再勧奨を実施する。				
Action					

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

	平成27年度 積極的な取組が評価できる。
	平成28年度 ①受診率が向上しており、取り組みが評価できる。
H27 総合評価	○ 取組内容の継続
H28 総合評価	○ 取組内容の継続

8 総合戦略効果検証シート					
4-3-3		③ 健康でアクティブな生活の実現			
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度
健康福祉課		運動習慣のある者 (※) の割合		45%	39.6%
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	39.8%	42.0%			
実績値	41.1%	41.1%			
年度目標に対する達成率	103.3%	97.9%			
基準値に対する増減率	3.8%	3.8%			
評価	◎	○			
取組内容	①特定健診後の保健指導として、市民が健康を維持するための有酸素運動実技の教室を開催し、運動療法の実技指導を行う。 ②健康づくり推進員や食生活改善推進員などのヘルスボランティアの受講を促し、健康づくりの地域活動に活用する。				
PLAN					
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...)	平成28年5月にウォーキングイベント、7月～3月に毎月有酸素運動の実技を身につける教室を開催した。実施した取組は以下のとおり。 ①回数 10回 ②内容 有酸素運動の実技 ③対象 平成28年度特定健診(74歳以下)結果で生活習慣病のリスクが多い方や運動習慣を身につけたい方 ④参加数 143人(実) ⑤場所 羽咋すこやかセンター				
DO					
分析	前年度と比べ、開催の回数を変更し、7月～3月の毎月開催にしたことにより教室の新規参加者は59人増えた。				
Check					
対応方向	有酸素運動の教室を今後も継続して開催していく。生活習慣病予防に重点におき、市民に運動の必要性を理解してもらえるよう実技に加え講話による教育を行う。 ①すべて休日に開催していたが、参加者の希望から平日と休日にも開催日を設定する。 ②平成29年度は回数を10回から12回に増やし4月～3月までの通年で毎月1回開催する。 ③対象を平成29年度特定健診結果で生活習慣病のリスクが多い方や運動習慣を身につけたい方とする。				
Action					

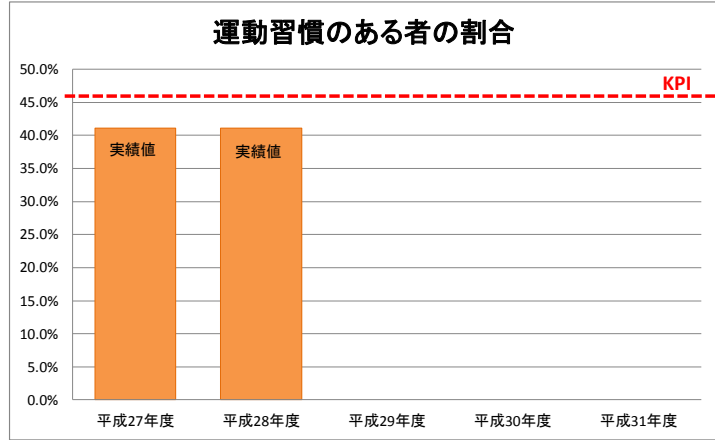
(※) 運動習慣のある人：一回20分以上汗をかく程度の運動を週2回以上行い、1年以上実施している人

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



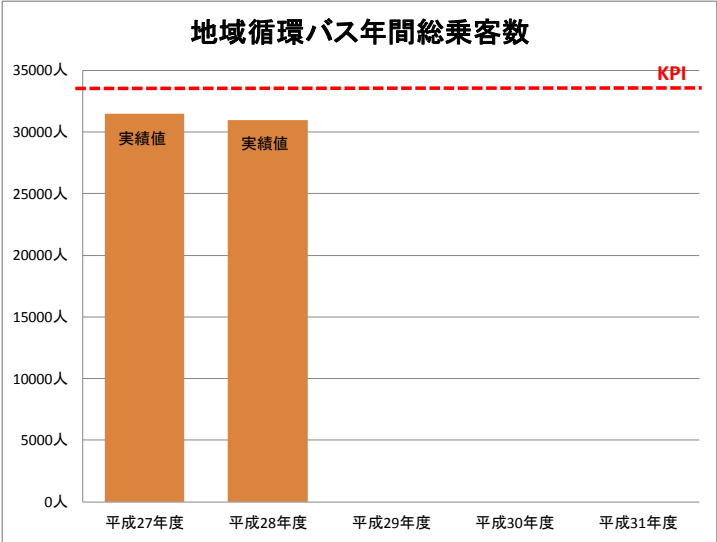
有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 ①筋トレはかなり浸透しているが、高齢期でも60代等、早いうちからの取組が必要である。 ②羽咋はつつ体操は高齢者でも取り組みやすいので普及を進めていくことが大事である。
	平成28年度 ①さらに参加者を増やしてほしいという意味を含めて、取り組み内容の深化・発展と評価したい。
H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

9 総合戦略効果検証シート					
4-4-1		① 地域循環型交通手段の確保			
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
健康福祉課		地域循環バス年間総乗客数		33,000 人	32,747 人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	32,760 人	32,000 人			
実績値	31,461 人	30,980 人			
年度目標に対する達成率	96.0%	96.8%			
基準値に対する増減率	-3.9%	-5.4%			
評価	○	△			
取組内容 PLAN	高齢者や障がい者等の交通弱者の生活利便性の向上のため、地域循環バス「るんるんバス」の運行と利用促進、通院時のタクシー利用支援など、要介護者の外出支援等を実施する。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...)	市内6コースをバス3台で運行 ①余喜・鹿島路・越路野コース ②中邑知・富永コース ③西北台コース ④栗ノ保コース ⑤神子原コース ⑥市内循環コース 運行：毎日2往復（市内循環コースは3.5往復）				
分析 Check	①通院の時間に合わせて運行しているため、その他を目的とした利用者の利便性が少ない。 ②利用者は高齢者中心であるため、利用者数は年々、減少している。				
対応方向 Action	①利用者アンケートの実施により、利用者ニーズを把握し、サービス、利便性の向上を図る。 ②「道の駅のと千里浜」のオープンに合わせバス停を新設し、利用者の拡大を図る。				

評価項目	
◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目	
◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 ①当面は地域の足として、るんるんバスは必要である。 ②今後は、他の施策の検討も必要である。
	平成28年度 ①乗客数が減っているが、高齢者の車の運転は危険なので、運転免許の返納と合わせて、るんるんバスの利用も促していくべき。 ②バスの本数を増やしても利用が増えるわけではないと思うので、難しい問題だと思う。
H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

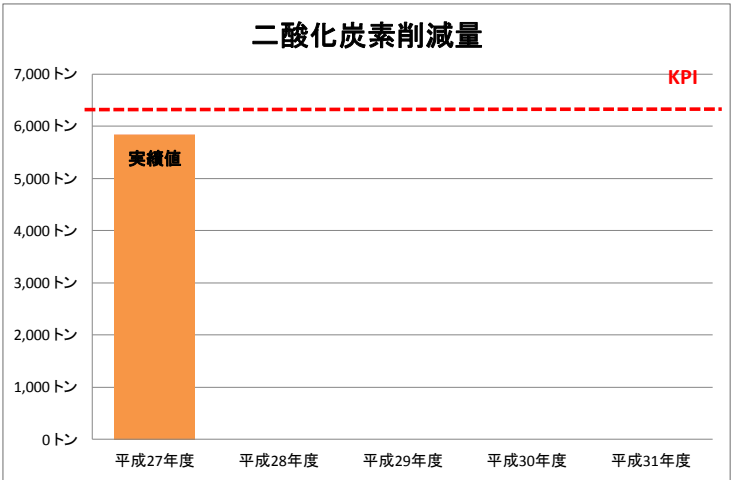
10		総合戦略効果検証シート			
4-4-2		① 再生可能エネルギー活用による低炭素社会の推進			
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
環境安全課		二酸化炭素削減量		6,041 トン	6,427 トン
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	6,234 トン	6,169 トン	6,105 トン		
実績値	5,848 トン	未確定			
年度目標に対する達成率	93.8%	-			
基準値に対する増減率	-9.0%	-			
評価	○	△			
取組内容 PLAN	地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を抑えるため、エコライフの推進や自然エネルギーの利活用の推進、未利用エネルギーの利活用の支援に取り組む。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	二酸化炭素排出係数の基礎となる電気事業者別排出係数が未公表(毎年年末に公表)のため未集計。				
分析 Check	ユーフォリア千里浜において、平成28年2月に熱源を灯油から電化システムに変更する改修工事を行ったことにより、電気量は増加したものの灯油量は減少した。 ①電気量 平成27年度 1,077,900kwh → 平成28年度 1,877,312kwh (799,415kwh増) ②灯油量 平成27年度 219,700ℓ → 平成28年度 0ℓ (219,700ℓ減)				
対応方向 Action	引き続き、市の施設の設定備更新や今後建設する施設設備において、最新の省エネルギー・再エネルギー技術の導入を推進していくとともに、省エネ効果の高い製品等の積極的利用を推進する。				

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



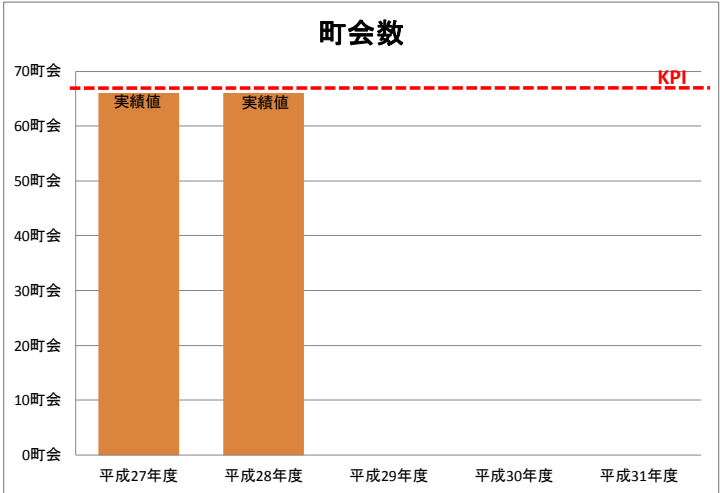
有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 少数の電気自動車の導入では効果が少ないのではないか。 ①高知県では、公共施設に多く、太陽光発電を取り入れているが、羽咋市でももっと増やしていくべき。 ②風力発電を検討してはどうか。
	H27 総合評価 ○ 取組内容の継続
H28 総合評価 ○ 取組内容の継続	

11 総合戦略効果検証シート					
4-5-1		① 町会への支援充実			
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度
総務課		町会数		66町会	66町会
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	66町会	66町会	66町会		
実績値	66町会	66町会			
年度目標に対する達成率	100.0%	100.0%			
基準値に対する増減率	0.0%	0.0%			
評価	○	○			
取組内容 PLAN	地域団体等（羽咋市町会長連合会）の活動を支援し、併せて市行政への協力体制を整備する。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	<p>①協働によるまちづくりを推進するため、各町会とまちづくりパートナーシップ協定を締結し、地域自治振興奨励金を交付。</p> <p>②羽咋市町会長連合会の運営費を補助。</p>				
DO					
分析 Check	<p>①まちづくりパートナーシップ協定に基づき、各町会で「地域の環境保全に寄与する事業」をはじめ、地域自治の振興に資する事業を数多く実施している。</p> <p>②町会長連合会の取りまとめにより、各地域における重要な課題（要望）を行政側として把握し、市政に反映することができている。</p>				
対応方向 Action	地域団体等と行政との信頼関係を構築し、地域社会を持続可能なものとしていく。				

評価項目	
◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目	
◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 ①青年団、婦人会の活性化も考慮し、町と行政が各町の状況に応じた地域の連携を協働で推進していく必要がある。
	平成28年度 ①町会への支援とあるが、青年団や、婦人会の活性化につながるものにしてほしい。地域の横のつながりを強くするための支援であってほしい。
H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価	○ 取組内容の継続

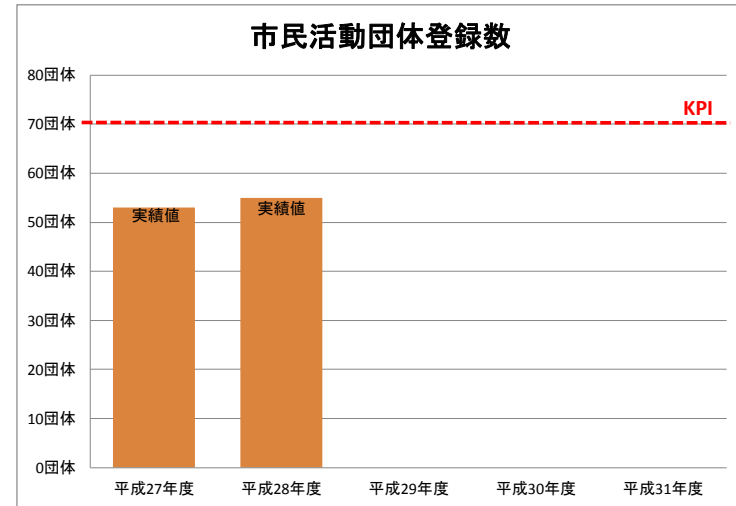
12		総合戦略効果検証シート			
4-5-1	②	地域コミュニティの活性化と地域づくりへの参加・促進			
担当課		重要業績評価指標（KPI） ※2019（H31）年度目標値		基準値 ※2014（H26）年度	
生涯学習課		市民活動団体登録数		70団体	50団体
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	52団体	53団体	57団体		
実績値	53団体	55団体			
年度目標に対する達成率	101.9%	103.8%			
基準値に対する増減率	6.0%	10.0%			
評価	◎	◎			
取組内容 PLAN	市民活動支援センターの運営				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	市民活動支援センターの管理及び運営をNPO法人わくわくネット・はくいに委託し、市民の柔軟な発想を生かしながら、支援センターの効果的な管理運営と市民活動の推進を図ったことにより新たに5団体の登録があった。				
分析 Check	まちづくりに関心のある方への相談やアドバイスを行い、必要に応じて活動支援や情報提供を行った。また、広報はくいやセンターだよりの市内配布及びHPなどにより、登録団体数の増加が図られた。				
対応方向 Action	今後も市民活動をやってみたいという個々の思いを大切に、相談、アドバイス業務を行うことにより活動団体登録数の増加を図る。				

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



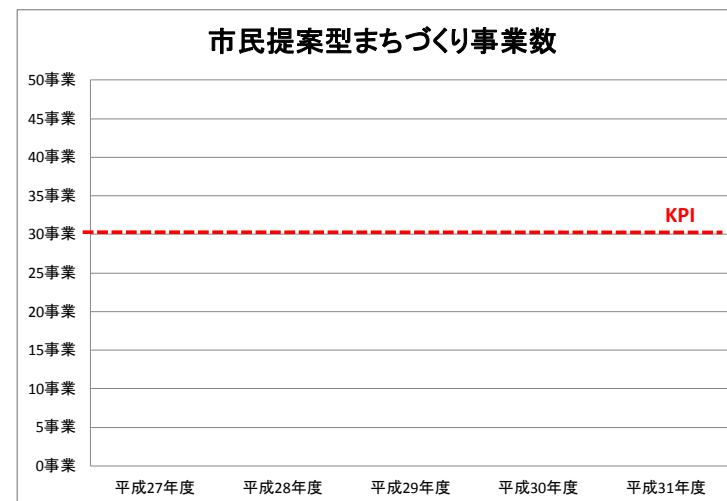
有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 ①災害時等にコーディネートをするボランティアも必要。 ②福祉、市民活動の各ボランティアの連携も重要。
	平成28年度 ①登録している団体は、公共福祉にかかわる団体や趣味のサークルまで内容は千差万別。いろいろな団体が活動していることを知らない人がいるのではないかと。 婦人会はなくなってきているが、逆に、こういった団体の方が増えてきている。自分の考えと合致する団体が増えていく方が良いのではないかと。
H27 総合評価	○ 取組内容の継続
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

13		総合戦略効果検証シート			
4-5-1	④	羽咋創生を担う市民提案事業への支援			
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
がんばる羽咋創生推進室		市民提案型まちづくり事業数		30事業(累計)	0事業※H29年度から実施
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	20事業				
実績値	0事業※H29年度から実施				
年度目標に対する達成率	—				
基準値に対する増減率	—				
評価	×				
取組内容	【平成29年度からの事業】 対象事業 「3年後にこういう町、こういう活動をしたい」という目標を明確にし、新しい工夫や発展性を取り入れ、助成期間終了後も継続が期待できる次のいずれかの事業に補助を行う。 (1) 地域の課題を市民と市の協働により解決していく事業 (2) 「がんばる羽咋創生総合戦略」を推進する事業				
PLAN					
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	平成29年度から実施 1 対象団体 市内に活動拠点又は事務所があり、提案事業を誠実かつ確実に実施できる、5人以上で構成する市民団体等(町会、公民館単位の団体、地区協議会、NPO、ボランティア団体など) 2 助成金額(上限額) 30万円/年 3 助成期間 最大3年間				
DO					
分析					
Check	平成29年度から実施				
対応方向					
Action	平成29年度から実施				

評価項目	
◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目	
◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	※平成29年度からの追加施策
	平成28年度 ①市民活動支援センターとからめてみても良いのでは。 ②上限30万円は大きい。
H27 総合評価	
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

14						総合戦略効果検証シート					
4-6-1		②		ふるさと納税の推進							
担当課		重要業績評価指標（KPI） ※2019（H31）年度目標値				基準値 ※2014（H26）年度					
がんばる羽咋創生推進室		ふるさと納税額		200,000千円		6,800千円					
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度						
目標値	7,000千円	100,000千円	250,000千円								
実績値	70,437千円	224,400千円									
年度目標に対する達成率	1006.2%	224.4%									
基準値に対する増減率	935.8%	3200.0%									
評価	◎	◎									
取組内容 PLAN	① ふるさと納税の寄付額増加に向けたPR ② 新規返礼品提供事業者及び新規返礼品の募集 ③ 今後の展開につながる事業者の紹介等										
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...)	① ふるさと納税返礼品事業者説明会開催（7月） ② プロカメラマン（兼フードコーディネーター）による返礼品の撮影 ③ サイト掲載内容を大幅に更新 ④ 年2回のカタログ作成										
DO											
分析 Check	① 急激な件数増に対し、個人事業主が対応できない状況が発生。 ② " " "、事務量増によりほかの業務ができない状況が続いた。 ③ 提携サイトを追加するも、個人事業者がこれ以上できないと半数しか登録されていない。										
対応方向 Action	① 今後も継続して返礼品提供事業者及び返礼品の募集を行う。 ② 体験型や羽咋市の特色を活かした返礼品を募集する。 ③ 単なる返礼だけでなく、今後につなげるため事業者等の紹介を追加する。 （顔の見えることによる親近感、安心感、ファン獲得による制度外での発注増）										

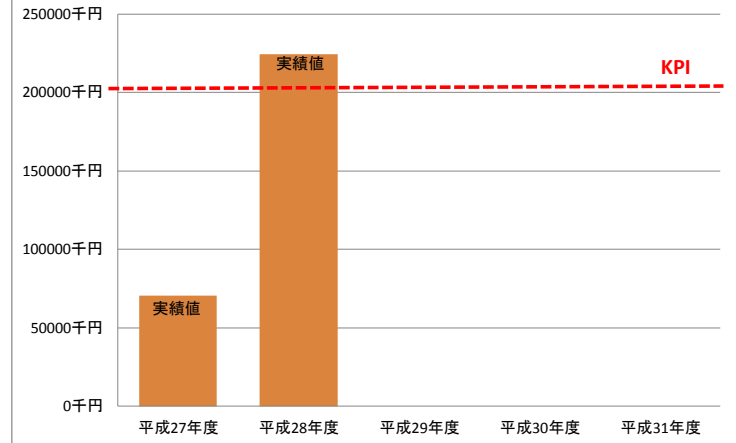
評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了

ふるさと納税額



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度	特になし
	平成28年度	① 礼品の上限や制約が設けられたが、引き続き工夫して取り組んでいってほしい。
H27 総合評価	○ 取組内容の継続	
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展	

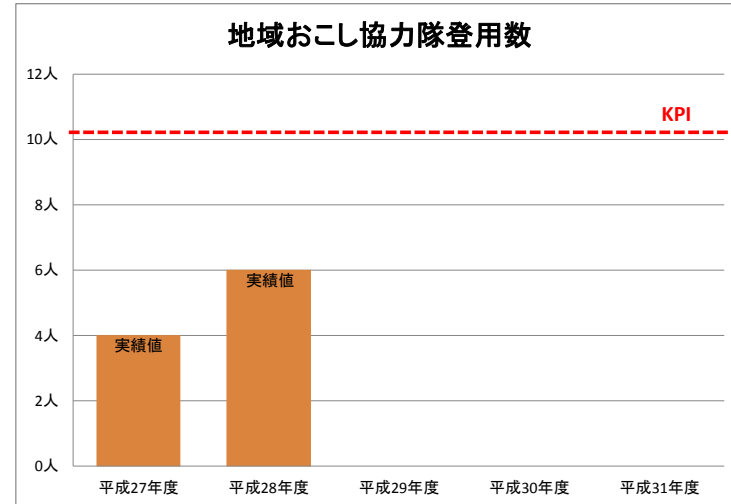
15		総合戦略効果検証シート			
4-7-1		① 地域おこし協力隊の活用と支援			
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
総務課		地域おこし協力隊登用数		10人(累計)	4人(H27)
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	4人	8人	8人		
実績値	4人	6人			
年度目標に対する達成率	100.0%	75.0%			
基準値に対する増減率	0.0%	50.0%			
評価	◎	○			
取組内容 PLAN	総務省の地域おこし協力隊制度を活用し、地域の活性化を図る自然栽培普及やジビエ活用事業などの地方創生事業に従事する都市部の若者を受け入れるとともに、3年後の自立に向けた支援を行う。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...) DO	(平成28年度) ①自然栽培普及事業3人(うち新規2名)、ジビエ活用事業2人(うち新規1名)、道の駅商品開発1人(うち新規1名)の計6人を採用 ②平成28年度から、より定着してくれる地域おこし協力隊を採用するために、採用前に1か月の実践研修を行っている。適正判断をするとともに、応募者には地域おこし協力隊をやっているかどうかを考える時間を与えている。 ③また、自然栽培普及事業では、3年後の自立および地元定着に向け、はくい式自然栽培合同会社を設立した。安定した生産体制の確立を図るとともに、新規就農者の受け皿となる。				
分析 Check	地域おこし協力隊は、地域に溶け込み、地域の活性化の一助となっている。しかし、3年後の自立および地元定着に向けた取り組みはまだ不十分である。				
対応方向 Action	本市の活力維持のためには、地域おこし協力隊員の受け入れが不可欠である。各担当課において、地域おこし協力隊の担う役割、3年後の自立に向けた支援を検討する必要がある。				

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 ①現事業の採算性はあるのか。 ②地域おこし協力隊の定着は望ましいが、短期でも新しい知識や考え方が入ってきて良いとわりきることも必要。 ③受け入れる地域(町会)の理解も必要だと思う。
	平成28年度 ①縁あって羽咋に来てくれた人なので、自立支援に力を入れてほしい。
H27 総合評価	○ 取組内容の継続
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

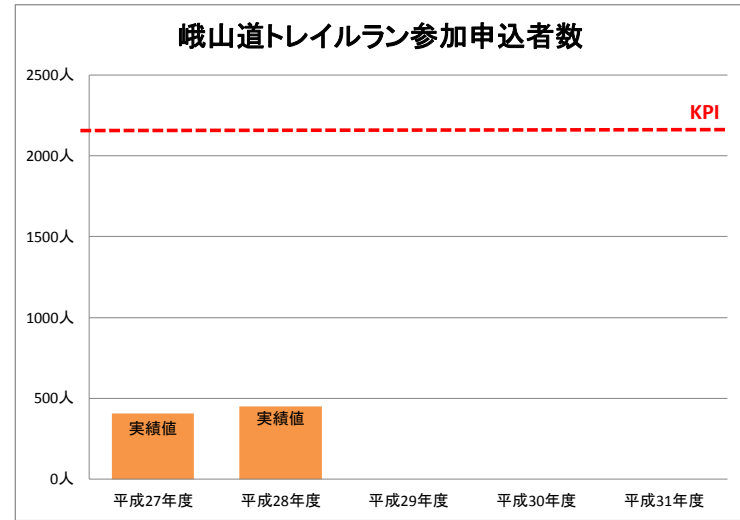
16		総合戦略効果検証シート			
4-8-1	④	世界農業遺産「能登の里山里海」の魅力発信、保全活動の推進【再掲】			
担当課		重要業績評価指標（KPI） ※2019（H31）年度目標値		基準値 ※2014（H26）年度	
生涯学習課		峨山道トレイルラン参加申込者数	2,200人（累計）	406人	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値			500人		
実績値	406人	451人			
年度目標に対する達成率	—	—			
基準値に対する増減率	0.0%	11.1%			
評価		○			
取組内容 PLAN	峨山道トレイルラン等、「能登の里山里海」を生かした事業の推進				
実績（具体的例：いつ、誰が、どこで、何を・・・） DO	平成28年11月13日、前回とスタート・ゴールを逆にして開催した「第2回峨山道トレイルラン」は門前総持寺を出発し羽咋永光寺をゴール地点とし、451名のエントリーがあり381名が出走した。そのうち完走者は288名で完走率75.6%であった。				
分析 Check	前回の大会を45名上回る451名のエントリーがあったことについては、今大会のコンセプト・コース・運営・応援等が参加者に一定の評価を受け、全国のトレイルランナーに浸透し始めたと考えられる。				
対応方向 Action	これまで2回の大会開催を通して「峨山道」の名が全国に広がりを見せており、トレイルランナーの間での知名度が着実に上昇しているため、引き続き第3回大会を開催することで、能登の禅文化と豊かな里山里海の発信に努める。				

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 特になし
	平成28年度 ①トレイルランのコースのところどころに応援に立ってほしい。
H27 総合評価	
H28 総合評価	○ 取組内容の継続

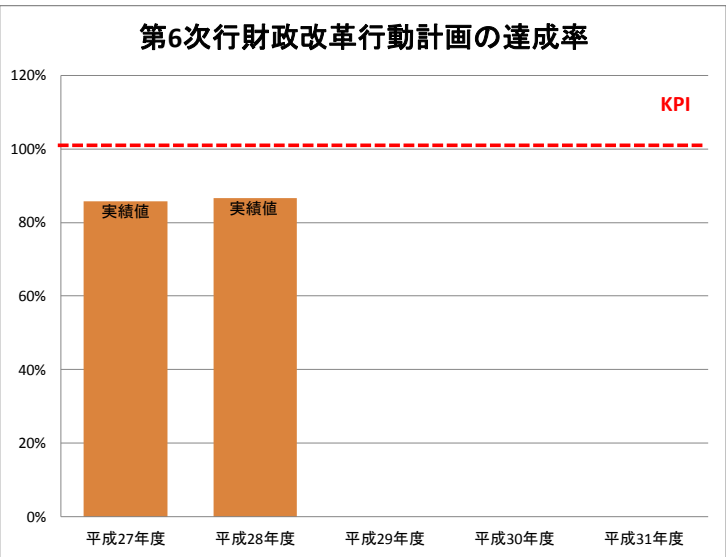
17						総合戦略効果検証シート					
4-9-1		②		行財政改革の推進							
担当課		重要業績評価指標（KPI） ※2019（H31）年度目標値				基準値 ※2014（H26）年度					
総務課		第6次行財政改革行動計画の達成率		100%		H27年度から実施					
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度					
目標値				100%							
実績値		85.7%	86.6%								
年度目標に対する達成率		—	—								
基準値に対する増減率		—	—								
評価			○								
取組内容 PLAN		平成26年度に策定した第6次行財政改革行動計画に基づき、基本方針である「市民参加と協働のまちづくりの推進」「市民サービスの向上」「効率的かつ効果的な行財政運営の推進」「人材育成と組織機構の見直し」の実現に向けて、各部署における計画の着実な実行のための進行管理を行う。									
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)		各課において年度当初に前年度の計画に対する実績の確認を行った。各課の実績について総務課で報告を受け計画の実績（進捗状況、行革効果、より行革効果を高める手段）について取りまとめを行い、計画全体の実施状況や達成度の確認を行った。									
DO											
分析 Check		計画どおり目標を達成した計画もあれば、現在検討中の計画、いまだに取りかかれていない計画もある。取組が不十分な部署が見受けられた。職員全体で計画に対する取組について再度確認をする必要がある。									
対応方向 Action		計画の中間年である29年度では、すでに目標を達成した計画については、目標値の設定見直し（上方修正）を図り、目標が未達の計画については手法の変更や、事業の見直しを図り、行革が効果的になるように修正を図りたい。									

評価項目

◎	目標値以上
○	基準値と同等
△	基準値未満
×	進捗なしor事業終了

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	※平成29年度からの追加施策
	平成28年度 ①86.6%まで達成しているので評価できる。
H27 総合評価	
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展